

吉川区の被害、中越地震を上回る規模

けが17人、住宅損壊23件、屋根瓦落下・壁落下・ひび等285件

中越沖で発生した地震は16日、午前10時13分31秒、吉川区総合事務所に到達。その8秒後の13分39秒には計測震度5・8（震度階級6弱）を記録し、吉川区内各地で住宅損壊などの被害をもたらしました。

今回の中越沖地震は3年前の中越地震を上回る揺れとなりました。今回の地震の特徴は、上下の揺れが少なく、南北よりも東西方向の揺れが激しかった点にあります。区総合事務所の地震計によると、午前10時13分39秒時点の最大加速度は南北方向が308ガル、東西方向は444ガル、上下方向は104ガルでした。

吉川区では10時30分に災害対策現地本部を設置。ただちに情報収集や安否確認、ライフライン確保などで動きました。

19日13時現在、吉川区での被害状況は、

次のとおりです。

- 避難所開設 1ヶ所 3人自主避難（ピーク時は16人）
- けが人 17人（このうち1人はやけどで入院。他は軽傷）
- 住宅の損壊 23件（危険6棟、要注意12棟、注意2、調査中3棟）
- 住宅の屋根瓦落下、壁落下、ひびわれ等 282件
- 非住宅の屋根瓦落下、壁落下、ひびわれ等 456件
- 灯油流失 25件
- 道路陥没、段差、クラック等 101ヶ所
- 断水 374世帯 区内4ヶ所で飲料水供給中

また、同日、この調査を受けて上越地区中越沖地震対策本部（阿部正義本部長）は市長への申しれをしました（写真左から阿部本部長、村山秀幸副市長、土橋均防災局長、橋爪）。



申入れの主な内容は、以下のとおりです。

- 一 応急危険度判定において「危険」「要注意」と判定された家屋とその居住者に対して
 - ① 判定の結果、何ができて何をしなければならないかなど具体的な説明を、該当者に対してただちに、かつ丁寧に行うこと。
 - ② 希望者には、必要な住居を確保すること。
 - ③ 判定をためらっている市民に対し、適切な対応をすること。
 - ④ 家屋の撤去費用・再建費用等に対する市の補助制度などを確立し周知すること。
- 二 要介護者に対する対応について
 - ① 散乱した家財等の後かたづけの支援をまとめている人を把握し、行政として必要な支援を行うこと。
 - ② 危険家屋居住者のみならず、家財の散乱などにより居住に困難をかかえている人たちへの対策を講じること。
- 三 道路等の被害に対して
 - ① 幹線道路の修復はすすんでいるようだが、枝線等には危険箇所が残されている。安全対策を講じるとともに、至急、修復作業にとりかかること。
 - ② ライフラインの確保に全力をあげること。

今回の地震と中越地震との比較

（吉川区総合事務所の地震計測定数値）

	中越地震 (04.10.23)	中越沖地震 (07.7.16)
計測震度	4.7	5.8
震度階級	5弱	6弱
最大加速度	145.2ガル	471.8ガル

【地震の単位についての日本建築構造技術者協会の解説】地震の大きさを表す単位には、長さや重さを表す単位のメートルやキログラムと同じように、震度、ガル(gal)、カイン(kine)、マグニチュード(M)、の4つの単位がよく用いられています。同じ地震でもそれぞれの単位で表せますが、表している内容が違います。

この4つの中で震度、ガル、カインは観測しているその地点での地震の揺れ方（地震動）の大きさを表しています。一方、マグニチュードは地震そのものの規模を表しています。震度は、もともとはその場所での地震の被害程度や人間の受ける感じを、大まかに7つに分けて表したものです。実際の建物が受ける地震動の大きさは、地震の状況をおおまかに示した震度ではなくて、ガル、カインで表すことが一般的です。たとえば、建物は地震によって東西南北上下と立体的に3方向に揺られますので、それぞれの方向に“最大何ガルの地震動が働いた”というように表します。

日本共産党市議団が 現地調査、市長へ申入れ

日本共産党上越市議団は17日、柿崎区、吉川区、頸城区などで被災者を見舞い、現地調査を行いました。吉川区では保健センターで被災者と懇談後、小苗代、川崎、天林寺、泉谷集落などの現地を調査しました。

● 停電 なし

● 交通止め 林道大下
名木山線（崩土）



NO 1304
2007.7.22

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一
TEL 548-3628 (有線) 4867
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www1.ocn.ne.jp/~hose/